

●オープニングイベント出演者プロフィール



シンガーソングライター

より子

●1984年5月13日生まれ。2歳で卵巣癌を発症し、闘病のために5歳まで病院で過ごす。11歳で作曲をはじめ、16歳よりシンガーソングライターとしての活動を開始。2005年、アルバム「Cocoon」でメジャーデビューを果たすが、翌年、全国ツアーを目前に二回目の卵巣腫瘍を発病し、活動を一時休止。1ヵ月で復帰を果たす。「Cocoon」を含む6枚のオリジナルアルバムでは、闘病生活を経た自分の人生そのものを音楽で表現している。「生きる」ことを歌い続けるより子の生き様は、TBS系「ニュース23」やNHK「ニュースウォッチ9」などで取り上げられ多くの反響を呼んでいる。

●トークショー出演者プロフィール



東京大学医学部附属病院放射線科

准教授

中川恵一氏

●1960年東京都生まれ。東京大学医学部附属病院放射線科准教授。1985年東京大学医学部卒業。同年 東京大学医学部放射線医学教室入局。東京大学医学部放射線医学教室助手、専任講師を経て、現職。2003年～13年東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部長(兼任)。厚生労働省「がん対策推進協議会」委員、同「がんに関する普及啓発懇談会」座長、同「がん検診企業アクション」アドバイザー、同「世界一受けたい授業」などテレビ出演、新聞連載多数。



タレント・よつばの会代表

原千晶氏

●1974年帯広市生まれ。1994年第21代クラリオンガールとしてデビュー。その後、TVや雑誌、ラジオ等を中心に活動。2005年30歳の時に子宮頸がんが発覚。手術を受けるが子宮は温存。2010年1月、再度子宮の体部と頸部にがんが見つかり手術と抗がん剤治療を経験。2011年7月、自身の経験をもとに婦人科がんの会「よつばの会」を設立。以降、タレントとしてもがんの啓発活動に積極的に関わっている。著書に「原千晶39歳がんと私、明日の私、キレイな私(光文社)」

日本人の **2人に1人が、がんになり3人に1人が、がんで命を落としています。**

奈良県でも、去年亡くなった人の

29.6% が、がんで亡くなっています。

出典：平成25年人口動態統計

いまや、全国で年間およそ

36万人 (死因の3分の1)が、がんで亡くなっています。

出典：平成25年人口動態統計

胃がんの5年相対生存率は、

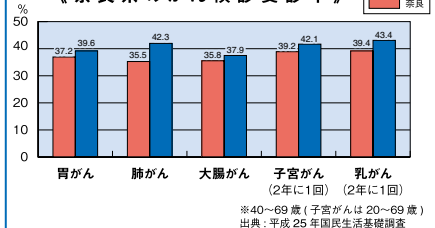
検診でがんが発見された場合 **87.8%**

自覚症状が出てがんが発見された場合 **53.3%**

がん検診は、5年後の生存率を大きく上げます！

出典：がん研究振興財団「がんの統計05」

《奈良県のがん検診受診率》



がん検診ってどんな検査？

必ず受けていただきたい
五大がんの検査方法を紹介します。

3 大腸がん

- どんな検査？：検便(2日間採取)
- 対象となる年齢：40歳以上
- 受診の間隔：1年に1回

1 胃がん

- どんな検査？：胃X線検査(バリウム検査)
- 対象となる年齢：40歳以上
- 受診の間隔：1年に1回

4 乳がん

- どんな検査？：マンモグラフィ検診、視触診
- 対象となる年齢：40歳以上
- 受診の間隔：2年に1回

2 肺がん

- どんな検査？：胸部X線検査
ヘビースモーカーの方には痰の検査
- 対象となる年齢：40歳以上
- 受診の間隔：1年に1回

5 子宮頸がん

- どんな検査？：内診、子宮頸部細胞診
- 対象となる年齢：20歳以上
- 受診の間隔：2年に1回

がん検診を受けよう！ 奈良県民会議 県ではがんによる死亡率の減少を目指し、現在 116 団体の行政・地域・企業・団体等が協働して、がん検診の受診率向上への取り組みを進めています。

**あなたとあなたの大切な人を守るため
是非ご参加ください。**

知ってみよう！聞いてみよう！
“がん”のこと

